お出かけ前の点検

CORONA MARK II 1700 / 1900

無断複製禁止

▩仕業点検

お出かけ前にこれだけはぜひ!!
どなたでも車を一回りすれば気軽に容易に点検ができます。
点検はムダを省き手順よく行うのがコツ。
①→②→③→の順に行ってください。

1. まずエンジン・フードを開けてオイルと水の点検……①
2. 次に運転席に座ってエンジン始動各計器類を点検し，ウオーム・アップさせるがらハンドル，ブレーキなどを点検……②
3. ヘッド・ランプをつけて車を出て周囲を一回りする間に，タイヤ，ランプ類,オイル漏れなどを点検‥③～⑤
4. 再び運転席に乗り出発前に徐行させながら速度計や，ハンドル，ブレーキの作動を点検……⑥

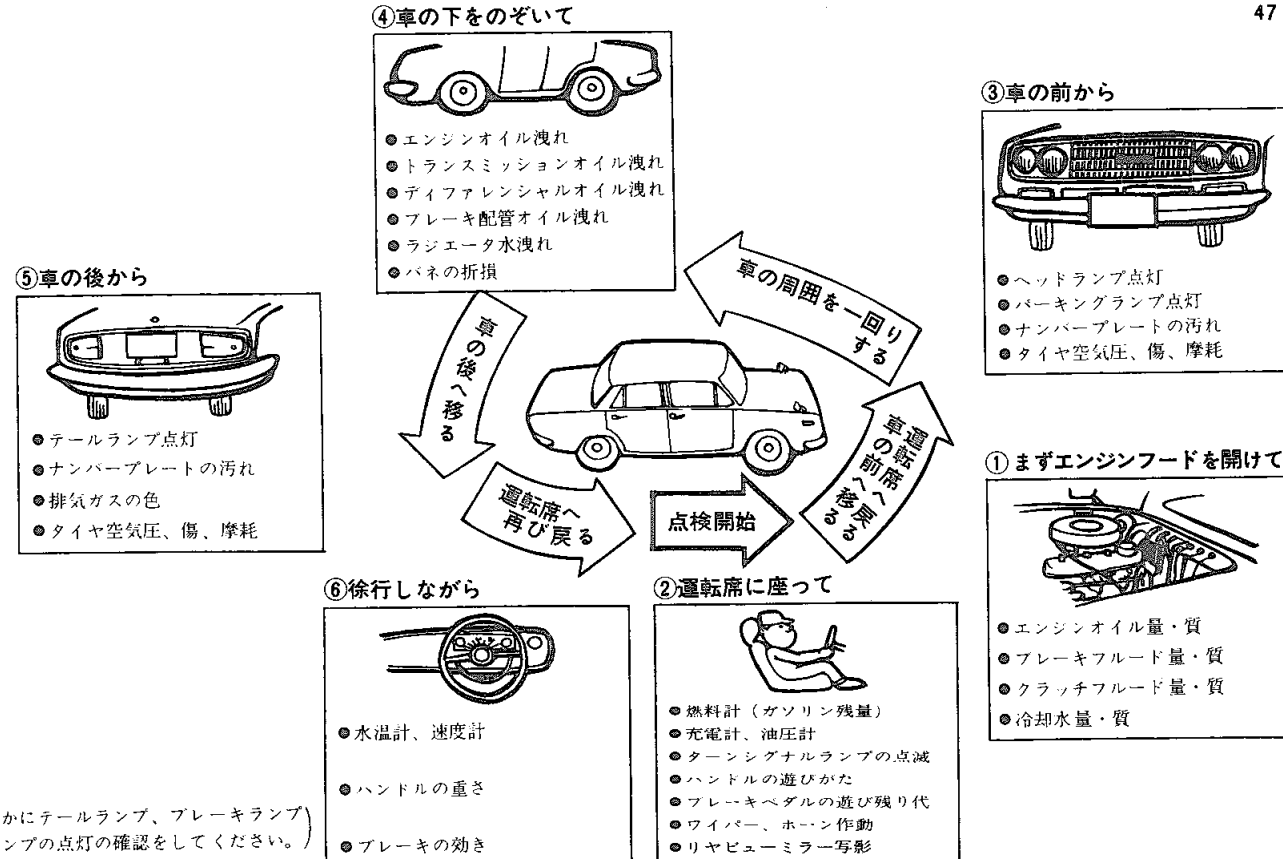
あなたのコロナ・マークⅡをいつも快適にご使用いただくために，お出かけ前に次のことを点検してください。

仕業点検項目

項目			点検内容
異状個所			前回の悪かった所はないか。
車のかたむき			前・後輪のスプリングに損傷はないか。
タイヤ			空気圧は適当か。異常摩耗,(残り溝1.6mm)損傷はないか。
エンジン			エンジン・オイルは規定量はいっているか。 異音は出ていないか。排気の状態は正常か。
ラジエーター			冷却水は規定量はいっているか。
バッテリー			バッテリー液は規定量はいっているか。
ブレーキ	ペダル	踏み残り代	いっぱい踏み込んだときの床とのすきまは55mm以上か
		遊び	0.5～5mmあるか。
	液量		規定量はいっているか。
パーキング・ブレーキ			引き代は適当か。13ノッチ以内　（残り9ノッチ）
ステアリング・ホイール			ゆるみ,ガタはないか。遊びはハンドル円周上で50mm以内
			異常に振れたり、とられたり、重くないか。
各ランプ類			各々のランプは点灯するか。
各計器類			作動はよいか。
ホーン			鳴るかどうか。
ワイパー			作動は良いか。
ミラー			後方がよく確認できるか。
ライセンスプレート・			汚れ，損傷はないか。

この中には，道路運送車輌法によりドライバーに義務づけられた仕業点検項目が含まれています。

無断複製禁止



（以上のほかにテールランプ、ブレーキランプ
バックランプの点灯の確認をしてください。）

無断複製禁止

■高速走行前の点検

高速走行前は仕業点検項目はもちろんですが，次の項目も追加点検してください

項　　目	点　　検　　内　　容
タイヤ	石，釘その他の異物はないか。
エンジン・オイル	汚れていないか。
ラジエーター	水漏れ，フイン間にごみなどつまりはないか。
ブレーキ	走行してブレーキの片ぎきはないか。 ブレーキ・チューブおよびホースと他の部分の接触，損傷 取り付けにゆるみはないか。
ハンドル	走行してハンドルが振れたり，取られたり，または重かったりはしないか。
ファン・ベルト	ファン・ベルトの張りは適正であるか。 損傷はないか。
ガソリン	目的地まで走行するのに十分はいっているか。

車外での点検

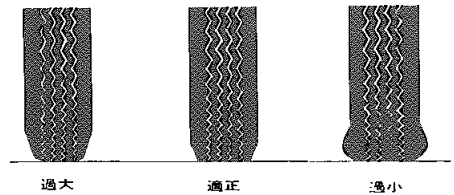
1 ＝外まわり

まず，車にのる前に車のまわりを一まわりして，ボデー，ランプ，タイヤなどに異状がないかを調べます。

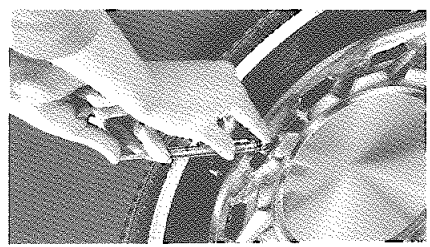
2 ＝下まわり

車を停めておいた地面に油とか水の漏れたあとがないか調べます。もし漏れ等異常があると思われるときはサービス工場で点検を受けてください。

3 ＝タイヤの点検



タイヤの空気圧を外観より判断する目安は図のとおりです。タイヤの空気圧は常に適正に保つてください。



空気圧はゲージで確実に適正空気圧に調整してください。この時スペア・タイヤ

無断複製禁止

も調べ少し高目に入れておきましょう。
前後，左右のタイヤの摩耗が著しく異なる場合，および損傷がある場合は取扱店のサービス工場で点検を受けてください。

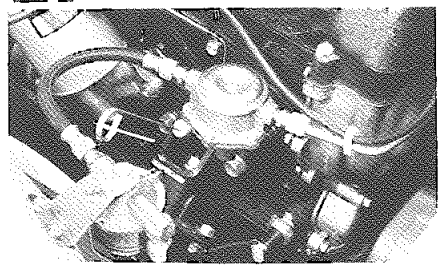
適正空気圧表

前　輪	1.5　kg／cm²
後　輪	1.5　kg／cm²

１００km／h 以下で走行する場合は，上記の空気圧以上にする必要はありません
ただし，連続高速走行（１００km／h以上）する場合は前輪，後輪ともに 0.3kg／cm² 高めてください。

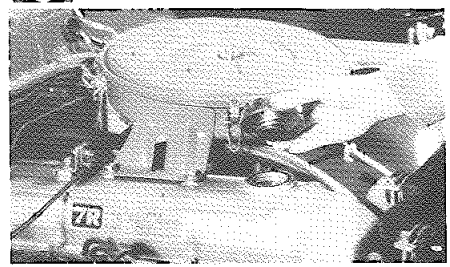
エンジン・ルーム内の点検

4 ＝エンジンオイルの点検



エンジン・オイル量はできるだけエンジン始動前に調べます。
レベル・ゲージを一度抜いて，きれいな布でふいて，元の穴へいっぱい差しこんで静かに抜き出し，先端についたオイルの位置を見てください。
オイルの線が〝F〟と〝L〟の間にあればよい。
オイルの汚れや変色の著しい場合は，交換してください。
≪注意≫
1．エンジンの停止直後に，エンジン・オイルの点検をしますと，正確な量を読み取ることができませんので，３分以上たってから点検してください。

5 ＝エンジン・オイルの補給



点検の結果〝L〟以下でしたら〝F〟まで補給します。
補給はオイル・フイラー・キャップを左にまわして取りはずし，そこから行ないます。〝F〟以上入れ過ぎないようご注意ください。
オイルは，キャッスル・モーター・オイル・スペシャル，またはキャッスル・モーター・オイル・ゴールデン・スペ

無断複製禁止

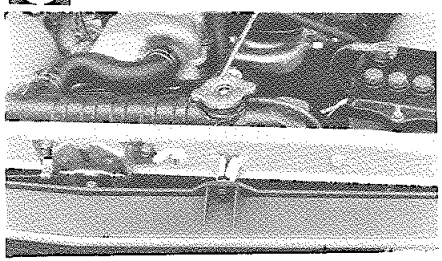
シャルをおすすめします。このオイルはオール・シーズン用の最高級モーター・オイルで年間を通じて一種類でご使用できます。

≪注意≫

1．オイルは，できる限り同じ銘柄のものを補給してください。

2．オイルを補給したあと，どれだけあるか必ずオイル・レベル・ゲージで確認してください。

6 ＝冷却水の点検



点検・補給

ラジエータ・キャップは左にまわしてはずし，冷却水がレベル・ゲージ（口元から約２０㎜）以下のときは，きれいな水（軟水）をレベル・ゲージまで入れてください。水を上端まで補給した場合は，運転中とか止まった時，少し水がこぼれることがありますが，これは故障ではありません。水の膨張によりある程度減るとそれ以上は減りません。

冷却水容量……7.4ℓ

≪注意≫

エンジンの冷却水温度が高いときは，危険ですから，エンジンが冷えるまで，キャップをあけないでください。

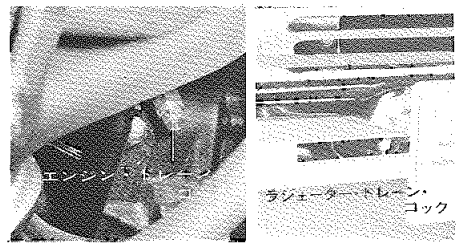
■不凍液

冬期には，ラジエーターに不凍液を入れてください。冷却水が凍ると，エンジンやラジエーターが破損します。

不凍液は必ず指定のキャッスル不凍液をご使用ください。

不凍液を入れる量によって，冷却水の凍る温度が変わります。キャッスル不凍液の場合は次表のようです。

凍結防止温度	−5℃	−10℃	−15℃	−20℃	−25℃	−30℃
不凍液内要量	0.9	1.7	2.3	2.7	3.1	3.4



不凍液の注入は次の要領で行ないます。

① ラジエーターおよびシリンダ・ブロックのドレーン・プラグを外し，冷却水を抜きます。

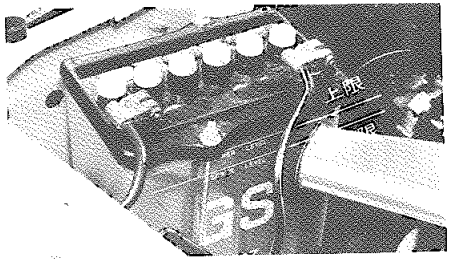
② 水道の水をだしたままにし，ラジエーターおよびシリンダー・ブロック内を洗浄します。

③ 両ドレーン・プラグを完全に締め，不凍液を入れ，不足分だけ水を補給しま

無断複製禁止

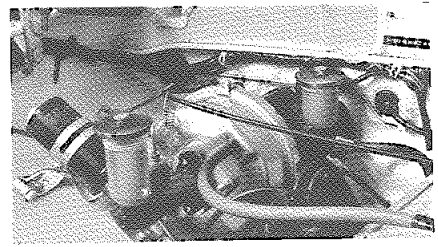
す。
春になったら不凍液を抜き上記要領で冷却系統を洗浄し，きれいな水を入れます。

7 ＝バッテリーの液点検



バッテリーの中の電解液は，使っているうちに蒸発して減ります。
バッテリー・ケースは半透明になっていますので，液量は外から点検できます。
液面がUPPER・LEVELとLOWER・LEVELの間にあればよく，少ないときは，UPPER・LEVFLまで蒸留水を補給してください。
≪注意≫
1．液は必ず蒸留水を使ってください。
2．電解液は希硫酸のため，衣服や塗装を犯しますのでご注意ください。
3．バッテリーのキャップには，通気穴があけてありますので，目づまりのないことをお確めください。
4．ターミナル部がゆるんでいたら，締め付けてください。
5．ターミナル部に白い粉が付いていたときは，温水で清掃し，グリース，またはワセリンを塗布してください。

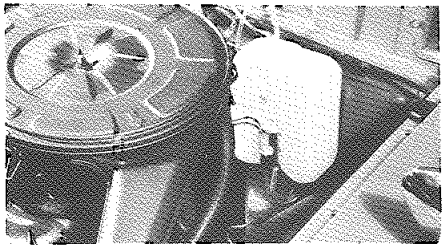
8 ＝ブレーキとクラッチとのフルード



フルード量は外から点検できます。
フルードは，タンク量ははいっていれば良好です。もし少ない場合はタンクの上限まで，トヨタ純正ブレーキ・フルード（グリコール２０００）を補給してください。
デイスク・ブレーキ取り付け車にはグリコール２４００をご利用ください。　２万一，フルードの減り方が著しいときは取扱店のサービス工場にご連絡ください
≪注意≫
1．ブレーキ・フルードは前記のものを補給してください。銘柄の違ったフルードを使用しますと，フルードの性能が低下し危険です。
2．補給のとき，ゴミがタンクにはいらないよう注意してください。小さなゴミでもフルードに混ると，ブレーキやクラッチがきかなくなることがあり危険です。
3．タンクの上面には通気孔があけてありますのべ，目づまりのないように注意してください。

無断複製禁止

9 ＝ウインド・ウオッシャー液の点検



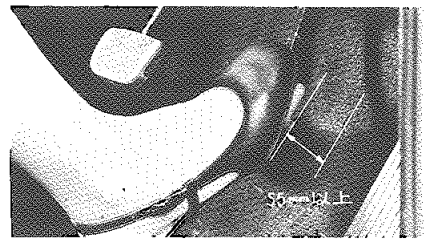
ウオッシャー液が空のままモーターを回しますと，モーターのこわれることがありますので常に規定のレベルまで補給しておきましょう。

寒冷時には液が凍結し，タンク等を破損することがありますので，凍らず洗浄力のすぐれたトヨタ・ウインドウ・ウオッシャー・フルードをご利用ください。

車内での点検

10 ＝ブレーキの点検

1．フート・ブレーキの点検



ブレーキ・ペダルをいつぱい踏み込んだとき，ペダルと床との間が55mm以上あり，また，ディスク・ブレーキ取付車はそのままの状態でエンジンを始動し，ペダルが少し，奥へ入れば異常ありません。しかし，この跡み残りしろが少ないとき，または，ブレーキのききがおかしいときは，サービス工場へ連絡してください。

走行中ブレーキを踏んだとき，万一コンビネーション・メーター内のＢＲＡＫＥランプが点灯したときは，ブレーキ関係に異状がありますので，速やかにサービス工場へご連絡ください。

2．パーキングブレーキの点検

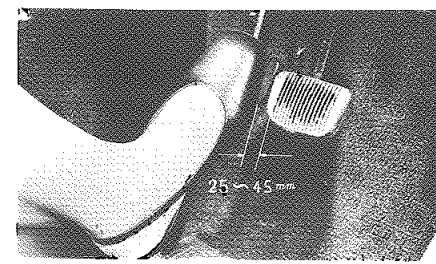
パーキング・ブレーキは，引き始めてからカチカチと音がし，13ノッチが正規です。

不具合のあつた場合は取扱店のサービス工場で点検を受けてください。

11 ＝クラッチ・ペダル

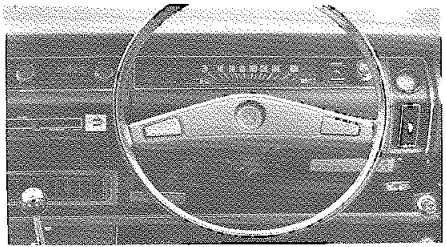
踏みはじめ25～45mm位はほとんど抵く，その後抵抗を感じながらいつぱい踏み込めるときは，異常ありません。

始めからペダルが重いとき，または抵抗なく踏めるときは，サービス工場へ連絡してください。



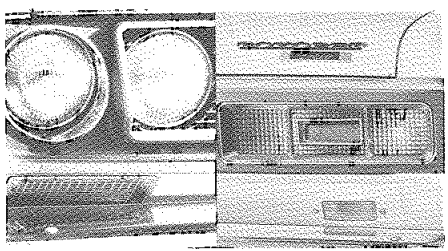
無断複製禁止

12 ステアリング・ホイールの点検



ホイールを左右に軽く動かしたときの遊びが多いとき，何か異常の感じられたときは，早目に取扱店のサービス工場で点検を受けてください。

13 計器類，ランプ類の点検



計器類……エンジン・スイッチをＯＮにして，各インジケータ・ランプが点灯するか確認します。
エンジンを始動して，各警告灯，ゲージが作動するか確認します。
ターン・シグナル・ランプ……エンジン・スイッチをＯＮにして左右同じ早さで点滅するか点検します。
万一異常があり，ヒューズ・ランプ類などを点検し，なおらない場合にはサービス工場へ連絡してください。
（セルフ・サービスのしかた64頁を見てください。）
ストップランプ……ブレーキ・ペダルを踏んで点灯することを確認する。
バック・アップ・ランプ……エンジン・スイッチをＯＮにし，シフト・レバーをＲの位置にして（トヨグライド車は，パーキング・ブレーキ・レバーを引き，エンジンをかけ，Ｒレンジにする），バック・アップランプが点灯することを確認します。

ホーンの点検

ホーンの音が正常なことを確認します。

ワイパー

ワイパーが正常に動くことを確認します（フロント・ガラスの汚れ，ホコリを取り除いて行ないます。）

リヤ・ビュー・ミラー

運転する姿勢で後方がはっきり見えることを確認します。

エンジン音の点検

エンジンがかかつているとき，キンキン音，金属的なコンコン音など異常のある場合は，サービス工場で点検を受けてください。

ランプ類

ヘッド・ランプ，スモール・ランプ，テール・ランプ，ライセンス・プレート・ランプが正常に点灯していることを確認します。

下まわり

車を停めておいた地面に油とか水の漏れたあとがないか調べます。もし漏れ等異常があると思われるときはサービス工場

無断複製禁止